

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590500023		
法人名	有限会社大浦		
事業所名	グループホームへいわ		
所在地	宮崎県小林市野尻町東麓2566-3		
自己評価作成日	平成26年10月24日	評価結果市町村受理日	平成27年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kihon:true&JizyosyoCd=4590500023-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くには道の駅や中学校など公共施設があり、施設周辺には田畑が広がっているため、作業をされる人や犬の散歩で通る人など、地域の人達と挨拶などの交流が持ちやすくなっている。敷地内にも畑や花壇等があり、自然と触れ合え、季節を感じられる。また、日課として新聞の読み聞かせや口の体操、頭の体操、車椅子の方でも立位訓練を行い、身体機能の低下を予防している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの食堂ホールの窓からは田畑が見え、季節に応じた景色が広がっている。浴室には暖房が設置してあり、冬でも暖かく入浴できる。また、車椅子の方でも安心して安全に浴槽に入れるようにリフト浴が設置してある。トイレは、車椅子の方でも介助がしやすいよう広くなっており、車椅子の方でも長くトイレで排せつができるように、手すり立つ訓練を行い、支援している。近くに畑があり、利用者が草むしりや野菜の収穫を行っている。野菜は食卓に上がり、皆で食べている。車椅子の方も花壇に球根を植えたりして、職員が支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で作成した理念があり、利用者の望む生活ができているか、毎月の勉強会等で話し合い、実践に活かしている。	理念を基に、本人を尊重する検討を行っている。「一人ひとりの望む生活を支援する」という理念では、散歩がしたい利用者を見守ることで、一人で行ける方法を検討し、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学生の体験学習や施設の行事に招待する等、積極的に交流している。地域の集まりにも参加し、意見交換をしている。	婦人部の集まりに参加し、ホームの説明を行ったり、ホームの敬老会に来ていただき、交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の集まりで認知症についての話をしたり、質問や相談にも答えるようにしている。屋外にいる時は、積極的に挨拶や会話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月実施しており、サービスの実際など分かりやすいように、写真をつけた資料として具体的に説明。意見が出やすいようにしている。そこでの意見は勉強会で検討。サービス向上に活かしている。	「地元には、こんにゃくを作り食べる祭りがある」との意見があがり、地域の詳しい方に来ていただき、ホームで利用者と一緒に作り楽しんだ。「保育園の運動会の練習に見学に行ってはどうか」との意見もあり、来年度に実施できるように検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者に運営推進会議のメンバーとして毎回出席してもらい、意見交換している。また、市の主催の会議や勉強会に出席し、連携を深めるよう努めている。	介護保険の更新申請、運営について、電話や訪問するなどしている。また、2か月に1回開催される「ほたるネット」の勉強会に市の担当者が参加し、そこでも連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内・外の研修や勉強会を通して学ぶ機会を持ち、正しく理解できるよう努めている。施錠については夜間のみで、職員が容易に開けることができる。	ヒヤリハットはファイルに閉じ、いつでも見られるようにしている。また、勉強会で話し合い、対応策について検討し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内・外の研修に積極的に参加し、周知徹底している。小さな事でも虐待の芽になりうるのではないかと注意を払い、指導に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修や施設外研修などに積極的に参加、周知出来るように支援している。また、介護の中でも利用者の意思決定を大切に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は分かりやすい言葉で十分説明を行っている。不明な点はないか尋ねたり、その都度疑問点は受け付け、納得されるまで説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に設置してある意見箱や面会時には職員が積極的に声掛けし、意見等問いかけている。提案された意見は、主任者会議にて解決策を講じるようにしている。	家族の来訪時に、お茶とお菓子を出して意見、要望などを聞き、その日の職員で話し合い、家族に伝えている。内容は申送り簿に記入し、職員で共有している。	家族からの意見、要望などを意見受付簿に整理し、朝礼、勉強会などの時に全職員で検討することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、主任者会議や勉強会を実施し、自由に意見を出してもらい、働きやすい職場づくりに努めている。	代表者が勉強会に参加し、職員の意見を聞いている。主任者会議にも代表者が参加して、職員からの意見を伝え、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からの意見もよく聞くよう努め、社会保険労務士や他事業所との情報交換なども行い、就業環境改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域の同事業者研修や勉強会に参加している。また、法人外の研修案内も行き、積極的に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隔月に開催される同事業者勉強会に参加してもらい、交流を図っている。平成26年7月から発行の小林市認知症ケアパス「コスモス手帳」の作成にも職員代表が参加した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言葉使いや語調、目線の位置などに気を配り、積極的に話しかけ、表情等もよく観察し、本人が話しやすいようゆっくりとした時間を持つようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの介護負担を労う気持ちを表し、優しい言葉使いで接し、要望や相談など、ゆっくり傾聴できるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新しい環境に慣れる事や今一番必要な支援を見極めるため、本人及び家族との関係づくりに努めたり、他関係者からの情報収集にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と共に調理や掃除、洗濯といった日常生活の場で協力し合い、一緒に暮らしているという家庭的な雰囲気作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも自由に面会できる環境を作り、家族と本人との絆がきれないように、お便りにて情報を発信したり、本人の望む生活ができるように家族と協力するように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の状態に合わせて、外出や散歩、買い物、通院などで、馴染みの関係が途切れないよう支援している。携帯電話で友人との会話を楽しみにしている人もいる。	地域で生活している友人が、野菜などを持って遊びに来られることがある。携帯電話は、いつでもかけられるように声掛けをするなど、関係性が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一日のほとんどを共同のフロア内で生活される人が多く、会話は職員の援助などでよく出来ており、また、馴染みの関係も出来ているため、孤立する人はいない。毎日レクリエーションも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の近況などは尋ねるようしており、可能な限り相談にも応じるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの望む生活を知るために、新しく入所された方の情報を、センター方式の一部を活用し、行った。他利用者に関しても、日々の関わりの中で情報把握に努めているが、記録方法を見直している。	センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を職員で勉強し、利用者の思いや意向の把握に努め、本人にとってより良い生活になるよう活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	調査資料や家族、本人からの聞き取りなどから、その人のこれまでの生活全般の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の生活の中で、全職員が気付いたこと、感じたことなどを記録として残すようにし、現状の把握をし、能力を充分引き出せるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を中心に、本人の望む生活は何かということを中心に考え、本人や家族の意向にそえるよう、情報収集し、全職員にてケアを共有し、その都度検討、見直しも行っている。	入居時は、1か月で見直しを行っている。介護計画について、職員から、1つは必ず意見を出してもらい、それを検討し、計画を申し送り簿に添付して、全職員が共有できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護内容や気づき、工夫も記録するようにしている。個々の介護計画にそって評価しやすい記録をするように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに柔軟に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、望む生活を継続できるように努めている。また、行事等で地域住民への参加の声掛けもしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医に受診できている。医師との連携にも努め、定期的な受診のほか、緊急時でも対応できるようにしている。	本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。家族が通院介助できない時は、職員が行っている。薬など変更があった場合、申し送り簿に記入して、職員が共有できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護師は日常的に情報交換しているため、個々の利用者は適切に受診や看護を受けられる。医療機関の看護師とも相談できる環境ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関で開催される勉強会にも参加し、馴染みの関係作りに努めている。また、入院中も訪問し、状況把握に努めるようにし、医療機関との連携は整っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より重度化や終末期の対応について指針を説明し、同意書ももらっている。急変時にはその都度意向を確認し、主治医等関係者とチームで支援に取り組んでいる。平成26年6月に1名看取りを行った。	重度化に伴い、同意書をその都度取っている。家族、主治医、管理者などの話し合いの内容については、申し送り簿に記入し、職員で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時には利用者の安全を確保し、看護師に連絡を取るよう周知されている。施設設置のAEDについても、職場内・外研修に参加、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の定期防災訓練を実施。地域住民にも回覧板や防災無線で放送してもらい、参加を呼び掛けている。また、グループホーム独自で、毎月1日に地震や火災時の避難経路確認等の訓練も行っている。	隣接する有料老人ホームと共同で定期防災訓練を行い、地域住民も参加している。ホーム独自で、毎月、地震や火災の訓練を行い、利用者はサッシガラスの鍵の開け方の訓練を行うなど、万が一に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修にも参加。個人の尊厳を重視し、全ての支援で自己決定できるような言葉かけに努めている。誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	部屋の出入りはドアをノックし、利用者の自宅という感覚で行っている。トイレ介助は、声掛けし、ドアを閉め、外で待っている。研修を行い、一人ひとりの人格を尊重した対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションもよくとれており、本人の希望にそった対応がすぐできるように努めている。入浴も最低週3回から、希望で隔日入浴とした。食事や入浴時間など、自己決定できるような声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、本人のペースで暮らせるよう、職員も柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように気を配り、衣類の選択や整容など、個々の能力に応じて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事には庭の菜園で取れた野菜など、季節の食材を使うようにしている。献立も利用者の意見を反映させるよう努めている。調理、準備、片付け等は個々の能力に応じて行っている。	職員は、利用者ができることを支援して、配膳、味付け、皮むきなどを行ってもらっている。おやつ作りは、蒸し芋、落花生を茹でる、カブの酢漬けなど、一人ひとりの能力を生かして行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成した献立で食事を提供し、栄養バランスを取っている。水分量も1日1000mlから1500mlを目標に、個々の状態に合わせて柔軟に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声掛けや誘導はもちろん行っているが、一人ひとりの意思表示や行動パターンに注意して、トイレ誘導を行っている。	オムツの種類については、担当者と話をして、申し送り簿で職員に意見を求め、決めている。車いすの利用者でも、トイレで長く排せつができるように、手すり立つ訓練を行い、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況は全職員が把握できるようにしている。食事や水分、運動等で便秘予防に取り組んでいるが、利用者によっては、主治医処方薬を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	隔日の入浴だが、希望があればいつでも入浴できるようにしている。18時以降入浴される人もいる。職員も入浴を楽しめるように、会話や歌等で工夫している。	入浴は、1日おきに行うが、希望があれば毎日でもできるようにしている。車いすの方でもリフト浴があり、安心・安全に浴槽に入ることができる。また、浴室には暖房があり、冬でも暖かく入浴できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員全員が安心して気持ちよく眠れるように環境整備したり、安心できる言葉かけをする等努めている。食後なども休息の声掛けをし、希望に沿った支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全体が薬に対する知識が得られるように、薬手帳をすぐに見られる場所に置いている。また、看護師に疑問点などを話せるような体制もできている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理が得意な人、歌が好きな人、洗濯たみが上手な人など、個々に合わせ、役割や気分転換できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそって、家族や職員で外出できるように努めている。施設周囲は花壇や畑があり、できるだけ戸外へ出て、花見や外気浴などを行うようにしている。毎日、散歩を継続している利用者もいる。	近くの畑に草むしりや野菜の収穫に出掛けたり、庭でお茶を飲んだり、車椅子の方も花壇に球根を植えたりして、一人ひとりの楽しみごとを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力で家族が対応している人、少額を持っており希望に応じて買い物する人、面会に来てくれたひ孫にお小遣いをあげる人と様々である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望で電話できるようにしている。携帯電話を持参している人もおり、自由に電話されている。仲の良かった友人にも電話をすすめる声掛けもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは分かりやすく大きな文字で表示している。廊下やホールには季節感のある絵などを提示している。また、季節の花を飾ったりもしている。	食堂ホールには天窓があり、自然の光で明るい。また、窓から田畑が見え、米、野菜など、季節に応じた景色が広がっている。浴室には暖房があり、冬でも暖かく入浴できる。トイレは、車椅子の方でも介助ができるように広がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内では、個々、話しやすい位置に座っておられる。自由にソファーに座ったりもされる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	常設の家具もあるが、本人の馴染みの物など、持ち込みは自由に行っている。テレビや携帯電話を持って来られている人や家族の写真など飾ってある人もいる。	居室には、家族の写真、花、時計など思い出の物が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内もバリアフリーとなっており、安全な空間を提供できている。		